

統計ニュース

〈報道各紙掲載記事より抜粋〉

《国内・国際》

6/1 2010年の平均寿命 男性79.55歳 女性86.30歳

2010年の日本人の平均寿命は男性が79.55歳、女性が86.30歳と確定したことが、厚生労働省が31日に発表した「完全生命表」で分かった。5年ごとに公表しており、2005年の平均寿命に比べ、男性は0.99歳、女性は0.78歳とそれぞれ延びた。厚労省が毎年公表している簡易生命表は、推計人口を基に平均寿命を算出。確定版の「完全生命表」は、5年に1度実施される国勢調査のデータを反映させ、作成している。

6/2 健康寿命 男性70.42歳 女性73.62歳

厚生労働省は1日、国民が一生のうちで健康面の支障がなく日常生活を送れる期間を初めて算出し、「健康寿命」と名付けて公表した。2010年の健康寿命の平均は男性が70.42歳(平均寿命79.55歳)、女性73.62歳(同86.30歳)結果となった。健康寿命は、同省が行っている国民生活基礎調査で、日常生活への健康上の問題を尋ねた質問に、「ない」と回答した人の割合や年齢別の人口などから、同省の研究班が計算した。都道府県別では、男性は愛知(71.74歳)、女性は静岡(75.32歳)がトップ。最短は男性が青森(68.95歳)、女性は滋賀(72.37歳)だった。ちなみに山口は、男性が(70.47歳)で22位、女性が(73.71歳)で24位という結果だった。

6/4 「買い物弱者」910万人

スーパーなどの生鮮食品店が自宅から遠く、徒歩での買い物に不便を感じる「買い物弱者」が全国で910万人に上るとみられることが3日、農林水産省の調べで分かった。最寄りの店まで直線で500メートル以上離れ、自動車を持たない人が対象。国勢調査と商業統計調査を基に推計すると、最も割合が高いのは長崎県の10.6%、次いで北海道が10.0%。最も低いのが東京都の4.1%、次いで山形の4.9%で全国平均は7.1%。ちなみに山口は、8.3%だった。

6/6 出生率 頭打ち 1.39

厚生労働省は5日、2011年の合計特殊出生率(1人の女性が一生に産むだろうと予想される子どもの数)は1.39で、前年と同じだったと発表した。過去最低だった2005年(1.26)の後は上昇傾向にあったが、頭打ちとなった格好だ。出生数も前年比2万606人減の105万698人と過去最低を記録したほか、一層晩産化が進み、第1子出産時の母の平均年齢は30.1歳。前年より0.2歳上昇し、初めて30歳を超えた。出生数が減りながら出生率に変化がなかったのは、分母となる女性人口も減少したためである。都道府県別の最高は沖縄の1.86、次いで宮崎1.68、鹿児島1.64。最低は東京の1.06、次いで北海道、宮城、京都がいずれも1.25、山口は1.51だった。

6/10 非正規労働 実態把握へ

パートや契約社員といった非正規労働者の実態をつかもうと、総務省が毎月実施している「労働力調査」の非正規に関する調査項目を来年1月から詳しくすることが9日、分かった。非正規は労働者の3人に1人に膨れ上がり、不安定雇用や低水準の賃金が問題となっているが、実態の把握が不十分との指摘があった。政府として調査を重点化し、雇用政策への反映を狙う。

《県内》

6/8 県内の生活保護世帯 過去10年で最多

県内の2010年度の生活保護世帯数(月平均)が1万2243世帯で、過去10年間で最多となったことが県のまとめでわかった。県厚政課によると、2000年度の生活保護世帯数は9174世帯だったが、年々増加して2005年度は1万1204世帯となった。2006年度から2年連続でわずかに減ったが、2008年度から増加に転じ、2010年度は前年度より687世帯増えて1万2000世帯を突破した。

6/8 子育て世代に 負担増

山口税務署が2011年分の確定申告状況を公表した。県内で所得税の確定申告書を提出した人は26万2117人で、前年比2万6000人減った。5年連続の減少だが、申告納税額は前年より10億8500万円増となった。税制改正に伴い、公的年金の収入額が400万円以下の人は所得税の確定申告が不要になったため、年金生活者を中心に申告者数が減少した一方、16歳未満の扶養親族への扶養控除廃止で子育て世帯が増税になったことが影響しているという。